知っていますか？ ヘアドネーション

Hair Donation

長く伸ばした髪を寄付し、寄付された髪で作った医療用ウィッグを無償で提供する活動をヘアドネーションと言います。町内にこの活動に取り組んだ、ある家族がいました。

身近なことから始められる、誰かのためにできること

医療用ウィッグとは

抗がん剤や放射線治療、火傷などさまざまな原因で頭髪を失う人がいます。そのような人たちに向けて、外見の変化に伴うストレスを軽減し、生活の質を高めることを目的に作られたのが医療用ウィッグです。

しかし、この医療用ウィッグは決して安いものではなく、中には経済的な理由で着用を諦める人も。そんな人たちを救うために始まったのがヘアドネーションです。

広がり始めた活動

日本でヘアドネーションの活動が始まった当初（２００９年頃）はまだ認知度も低く、一つのウィッグを作るのに４年もの時間を費やしたそうです。しかし最近では著名人がこの活動に賛同したことなどで知名度が上がり、髪を寄付する人（ドナー）も増えたことで、ウィッグを必要とする人に１～２年程度で届けられるようになりました。髪の寄付を受け入れる団体も少しずつ増え、今やヘアドネーションは多くの人が取り組む活動になりました。

寄付の受け入れ団体によって違いはありますが、一般的には31cm以上の髪の長さが必要とされています。

家族で取り組んだヘアドネーション

祖母、母、娘の親子３代でヘアドネーションに取り組んだ藤江さん一家（坪谷・22区）にお話を聞きました。

藤江直美さん　藤江恵子さん　藤江和恋（わこ）さん

――髪はいつ頃から伸ばしていますか。

直美さん　娘の和恋は生まれてからずっと髪を伸ばしていて、最初は七五三（７歳）になったら切る予定でした。しかし、髪を切るのは初めてのことだったので、その時は踏ん切りがつかず、それなら10歳の誕生日になったら切ろうということで10年間伸ばしています。母も同じく10年、私は５年程前から伸ばしています。

――髪を寄付しようと思ったきっかけは何でしたか。

直美さん　ある日家族でテレビを見ていると、小児がん患者を取り上げた番組をやっていて、抗がん剤治療で髪の毛が抜け落ちてしまった子が紹介されていました。それを見た和恋が「和恋の髪の毛が役に立つなら力になりたい」と言いました。だけど自分だけだと心細いから、私と母も一緒にと言うので、３人で同時に髪を切ることに。

ただ、そのときは漠然と寄付をしたいとは考えましたが、まだ明確にヘアドネーションに取り組もうというつもりはなく、切った髪をどこに寄付すればいいのかは分かりませんでした。

髪を束ねて寄付で送る髪の長さを決めます

――どのようにヘアドネーションにつながったのですか。

直美さん　私の仕事先で知り合った人で群馬国際アカデミー（以下、ＧＫＡ）の関係者の人がいて、その人づてにＧＫＡでヘアドネーションの活動を行っている学生が立ち上げた同好会があることを知りました。それから、髪の寄付を行いたいという思いを同好会に伝えると、同好会を経由して、寄付の受け入れ団体に送ってもらえることになりました。

恵子さん　後から知ったことですが、この同好会を立ち上げた学生というのが、親戚の孫だったそうです。不思議な縁だと感じましたね。

カットした髪を見て、その長さに改めて驚き……！

――初めて髪を切ってみた感想はどうですか。

和恋さん　緊張してその日はごはんを食べられませんでした。でも切ったら楽になったし、すがすがしい気分です。ずっと長い髪だったので、周りからどう思われるか不安だったけど、友達は「短い髪もいいよ」と言ってくれました。

――髪を受けとった人に伝えたいことはありますか。

和恋さん　ウィッグを必要としている人は、病気などで気分も落ち込んでいると思います。だから、私の髪で作られたウィッグを受け取った人には、私と同じくらい元気になってもらえたらいいなと思います。

和恋さんにとって生まれて初めての散髪は家族の手で

直美さん　今回カットをしてくれた美容師の清水さんもご厚意で協力してくれました。他にもＧＫＡのヘアドネーション同好会の皆さんなど、いろいろな人の助けや偶然が重なって今回の取り組みにつながったと思います。髪を切るという何気ない行動一つでも、誰かの役に立つことができるのだと感じました。

恵子さん、和恋さんは95cm。直美さんは70cmの髪を寄付

髪を切ってその後

髪が長かった頃は家族の手を借りて洗髪をしていた和恋さんも、今では自分で髪を洗うようになり、自立にもつながったと話していました。和恋さんは10年後もまたヘアドネーションに取り組むという目標を掲げ、これからも髪を伸ばすそうです。

購入費の助成を進めます

ヘアドネーション活動で、髪を寄付した皆さんの思いや願いが込められたウィッグは、病気や治療により髪に悩みを持つ人に、髪を失う前と同じ日常を過ごし、髪を理由に何かを諦めることのないような環境づくりにつながっていると思います。さまざまな要因で脱毛で悩んでいる人がいて、特にがん治療を受けている人にとって、抗がん剤の副作用で起きる脱毛は精神的に大きな負担だと考えます。

こうした状況を受けて、町では抗がん剤治療の副作用で起きる脱毛により、医療用ウィッグを購入した人へ、令和５年度から購入費の助成ができるよう進めていきます。経済的負担の軽減や療養生活の質の向上、さらに就労などの社会生活への支援の一助になると考えます。